



平成30年7月 報告内容

とっとりのもちなか暮らし
(まちなか居住モニター報告)



「ギャラリー鳥たちのいえ」に集まる思い

若桜街道の本町の角地にある「ギャラリー鳥たちのいえ」は、長年「ギャラリーあんど」として親しまれてきた場所。2017年6月の閉廊後、鹿野町で演劇に取り組む「鳥の劇場」の中島諒人さんが、“この場所がすっぽり空いてしまうのはよくない”と、個人で建物から買い取り、名称を変えて、ギャラリー運営を継続されています。新しいギャラリーを応援したいと7月14日～8月10日にかけて開かれたのが、展覧会「裸のトポス」です。写真家・池本喜己さんが昭和50年代に上町の樗谿グランドアパートで撮影していた写真を30年の時を経て発表。会期中に開かれたトークでは、鳥取の文化を支えてきた方々が、古い建物やまちの記憶、鳥取で表現活動することなどについて語られました。まちは過渡期。いいものをしっかりと受け継いでいきたい。



(ギャラリー鳥たちのいえの展示室で行われたトーク風景)

知る人ぞ知る！お魚屋さんの手づくり弁当

末広温泉町に今年オープンした「あぶり屋」は、旬の新鮮な魚介を炭火で焼いて楽しめます。夜がメインなのですが、昼には手づくりのお弁当を販売されているのをご存じですか？ワンコイン500円（税込み）で、数種類の魚のおかずのほか、肉、野菜、卵焼きなど盛りだくさん。ほっとする家庭の味で、とても美味しいのです。

実は「あぶり屋」は、鹿野街道に古くからあるお魚屋さん「井上商店」が経営しているお店。“もっと地域に喜んでもらえるものを”という思いの先に、新たな場所やサービスが生まれてきています。



（手作りのおかずが盛りだくさんのワンコイン弁当）

「ことめやラジオ」で商店街におでかけ

瓦町にあるコワーキングスペース「ことめや」を拠点に、半径数メートルしか届かない微弱電波を出しながら放送しているミニFM放送局「ことめやラジオ」。個人の小さな趣味みたいな活動がまちなかに飛び出しました。7月28日、鳥取太平線通り商店街の納涼マルシェに初出店。ブースでは、ライブの出演者や商店街の方にゲスト出演していただいたり、通りがかりに興味をもって足をとめてくださった方と会話をしてみたり。まちなかでの新たなコミュニケーションツールとして、多くの方におもしろがっていただきました。



(衣料品店の軒先に放送ブースが出現)

かき氷の季節が到来！

今年の猛暑は一段と激しくて、暑い日が続きますね…。涼を求めて辿り着いたのが、鳥取駅前のゲストハウスY Pubさん。クーラーが効いているのは勿論、こだわりのかき氷を食べたくて。一皿ずつ削った氷はイマドキのフワツとした氷じゃなくてちょっと荒め。そこにお店自家製のすももシロップと練乳をあとがけで頂きます。すももの酸味が強めの甘ったるくないサッパリかき氷！ちょっと珍しいかも。身も心も涼しくなりました。



駅前でおしゃれに呑みたい...

鳥取駅前には想像以上に居酒屋だらけ！...とは言ったものの仕事終わりの同期女子を連れて気軽に呑みにいけるお店は少ない。そんな中で、よくお世話になっているのが鳥取酒家Nicoさん。店内はキレイだし、こじんまりだから気兼ねなくお喋りしながら美味しい鳥取の地酒が楽しめます。酒の肴も地元産や鳥取名物が多くてそこはかとなく充実した鳥取の夜を堪能できますよ。



通好みな弥生町の隠れフレンチ

前を通りかかるたびにずっと気になっていた、店構えが可愛いこのお店。中はなんと8席程度のちょっぴり狭めのフレンチ！オーナーシェフは以前、南吉方でもっと大箱のフレンチ店を回していたそうで高齢になっても続けられるよう駅前に移ってきたそう。根っからの料理人なオーナーから一品ずつ料理の解説を受けながらシェリー酒と一緒に食べたティラミス…美味しかったなあ。



まちなか暮らしを始めて（自己紹介）

昨年夏に東京から引っ越してきました。鳥取は砂丘のイメージしか無かったので、まちなかは想像できませんでした。縁あって職場近くに居住し、まちなか暮らしを始めてちょうど1年ほどになります。

まちなかは全てがギュッとコンパクトにまとまっていて、とても住みやすいです。所々に観光スポットもあり、余暇も気軽に楽しめます。まちなかが季節感に溢れていて、東京よりも生活の充実感アップです。

夏は「しゃんしゃん祭り」が楽しみです。



ご近所の気になる建物「わらべ館」について

物件探しの時、まちなかに「この建物は一体何？」と強く印象付けられたのがこのわらべ館です。昔、通っていた高校の校舎にそっくりだったこともあり、とても惹きつけられました。

歴史的には神戸を拠点に活躍された置塩章氏が手掛けた旧県立図書館の外観を復元した建物だそうです。館内はおもちゃがいろいろあって一日楽しめますが、外も芝生の広場が併設されていて、春夏秋冬通じて、まちなかの子ども遊び場として最適です。



熱中症対策は図書館へ

この夏は鳥取に限らず、全国各地で連日38℃や40℃と最高気温のニュースが続いています。休日でも猛暑日では、外出のモチベーションが下がり気味です。そんなとき、日中でも涼しく快適に過ごせる図書館がおすすです。江戸時代風の門構えをくぐると現代建築的な県立図書館の入口へという構図も面白いです。自宅から数分歩くだけで立派な図書館がいつでも利用できるのはまちなか暮らしの大きな魅力ですね。

